

Ⅲ 総括

1. 全体考察

■ 回答者について

性別については、男性が43.0%、女性が55.9%となっています。年齢については、70歳以上が約30%と高くなっています。また、加古川市での居住年数が20年以上の人は全体の約70%となっています。

職業については、「会社員、公務員」が約30%、「無職」が約20%となっています。通勤・通学している人の通勤・通学先については、約30%が市内となっています。また、通勤・通学をしている人の約30%は「自動車」を利用しています。

■ 定住意向と加古川市に対する誇りや愛着について

約70%が「現在の場所に住み続けたい」と回答しています。特に、若年層よりも高齢者層のほうに「現在の場所に住み続けたい」の割合が高い傾向がみられます。居住地区別にみると、加古川北、加古川西、加古川、両荘では「現在の場所に住み続けたい」が70%以上と高くなっています。

市内の他の場所や市外に移りたい人が転居したい理由については、「通勤、通学に不便である」、「景観・まちなみに魅力が少ない」、「買い物環境が充実していない」などが上位に挙がっています。

加古川市に対する誇りや愛着の程度については、約70%が「感じる」（「感じる」と「やや感じる」の合計）と回答しています。

■ 心ゆたかな暮らしについて

（1）地域生活のWell-Being

「地域生活のWell-Being（問4）」に関する21設問において、“あてはまる（「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」の計）”をみると、「(4) 暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない」「(10) 自宅には、心地のいい居場所がある」「(13) 私は、精神的に健康な状態である」が“あてはまる”の上位3つとなり、3つとも70%を超えています。

反対に“あてはまらない（「あまりあてはまらない」と「全くあてはまらない」の計）”では、「(2) 暮らしている地域では、新たな発見や刺激が得られる」「(3) 暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある」「(1) 暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」が“あてはまらない”の上位3つとなり、(2)と(3)は50%を超えています。

（2）協調的幸福Ⅰ

「協調的幸福Ⅰ（問5）」に関する6設問において、“そう思う（「そう思う」と「どちらかという」と「そう思う」の計）”をみると、「(2) 町内（集落）に住む人たちは、基本的に誠実に振る舞う」「(3) 私は自分の地域の役所が行う仕事を信頼している」「(1) 私は同じ町内（集落）に住む人々を信頼している」が“そう思う”の上位3つで、(2)は60%を超えて特に高くなっています。「(5) この町内（集落）には、お互いの役に立つことを求める雰囲気がある」は19.2%で最も低くなっています。

(3) 協調的幸福Ⅱ

「協調的幸福Ⅱ（問6）」に関する設問において、住んでいる町内（集落）における活動のうち、通常参加しているものについては、「自治会」「ごみの分別活動」「地域行事」が上位3つで、「自治会」と「ごみの分別活動」はいずれも50%を超えて特に高くなっています。

(4) 協調的幸福Ⅲ～Ⅴ

「幸福度（問7）」は平均6.85点で、男女ともに比較的若い世代で幸福度が高くなっています。

「健康度（問8）」は平均6.61点で、男女ともに比較的若い世代で幸福度が高くなっています。

「町内幸福度（問9）」は平均6.22点で、男女ともに比較的若い世代で幸福度が高くなっています。

健康度別に幸福度をみると、健康と答えた点数が高い人ほど幸福度が高くなっており、健康度10点の人の幸福度は平均8.8点、健康度0点の人の幸福度は2.6点となっています。

これは町内幸福度でも同様の傾向にあり、健康度10点の人の町内幸福度は平均7.4点、健康度0点の人の町内幸福度は4.1点となっています。

(5) 協調的幸福Ⅵ

「協調的幸福Ⅵ（問10）」に関する32設問において、“そう思う（「そう思う」と「どちらかという

とそう思う」の計）をみると、「(28)将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」「(5)平凡だが安定した日々を過ごしている」「(6)人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている」「(18)私は、町外（集落外）からきた人が町内（集落）に定住することは喜ばしいと思う」が“そう思う”の上位4つで、(28)と(5)はいずれも75%を超えて特に高くなっています。「(22)私は、町内（集落）を良くするために、今より良いやり方を思いつく」は15.2%で最も低くなっています。

(6) センシュアス・シティ等

「センシュアス・シティ等（問11）」に関する26設問において、“しょっちゅうあった”をみると、「(17)通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた」「(22)オンラインで日用品（食料品、薬、洋服、靴等）の買い物を行った」「(15)美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た」が上位3つとなっています。“ほぼなかった”をみると、「(6)友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した」「(3)刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した」「(25)ボランティア活動をしている」が上位3つとなっています。

(7) 寛容性等

「寛容性等（問12）」に関する19設問において、“そう思う（「強くそう思う」と「ある程度そう思う」の計）をみると、「(11)安心した食生活に満足している」「(8)私は、好きな時に好きな場所に移動できる」「(19)私が住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思う」が上位3つで、(11)は65%を超えて特に高くなっています。「(10)私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある」は15.9%で最も低くなっています。

■ 市の政策に対する満足度・重要度について

満足度のスコアをみると、「水道水の供給」、「下水道の整備」、「消防や救急・救命体制」などが上位に挙がっています。一方で、「バスの便利さ」、「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「地域特性を生かした土地利用」、「観光の新興」などのスコアが低くなっています。

重要度については、「安心できる医療体制」、「消防や救急・救命体制」、「防犯・交通安全対策の推進」などが上位に挙がっています。

重要度が高いが満足度が低い項目としては、「教育を支える体制や学習環境」、「幹線道路の整備」、「生活道路の安全性や便利さ」などが挙げられます。

■ 防災対策・防犯対策について

防災対策、防犯対策については、いずれも「家庭として取り組んでいるものがある」「何も取り組んでいるものはない」がそれぞれ約40%となっています。

■ 子育てと仕事に関することについて

加古川市が子育てしやすいまちだと感じるかについては、「感じる」（「感じる」と「やや感じる」の合計）と「感じない」（「感じない」と「あまり感じない」の合計）がそれぞれ約50%となっています。性年代別にみると、男性の60歳代、女性の20歳代で「感じない」が60%以上と高くなっています。居住地区別にみると、志方、両荘で「感じない」が60%以上と高くなっています。

子育てと仕事の両立について理解が進んでいると思うかについては、「感じる」（「感じる」と「やや感じる」の合計）と「感じない」（「感じない」と「あまり感じない」の合計）がそれぞれ約50%となっています。性年代別にみると、男性の18・19歳、30歳代、女性の30歳代、40歳代で「感じる」が60%以上と高くなっています。

■ 協働のまちづくりについて

市民活動の参加状況については、参加している人が約15%となっています。性年代別にみると男性の70歳以上、居住地区別にみると両荘では、参加している人が20%以上と高くなっています。

市民活動への参加意向については、「参加したい」（「ぜひ参加したい」と「機会があれば参加したい」の合計）が約50%となっており、現在は参加していない人の中にも、参加意向のある人がいることがわかります。性年代別にみると、男女ともに18・19歳では60%以上が「参加したい」と回答しています。

■ 市政などに関する情報について

市政に関する情報の入手方法については、「広報かこがわ」が80%以上と高く、「町内会の回覧など」が約50%で2番目に高くなっています。性年代別にみると、「町内会の回覧など」は男女ともに、年代が上がるにつれて高くなる傾向があります。

加古川市の取り組み等の認知度については、「見守りカメラ」が約70%と高く、「棋士のまち加古川」、「かこがわ防災アプリ」が約50%となっています。性別にみると、「子育てプラザ」、「かこがわウェルビーポイント制度」、「かこてらす」は男性に比べて女性のほうが10ポイント以上高くなっています。